

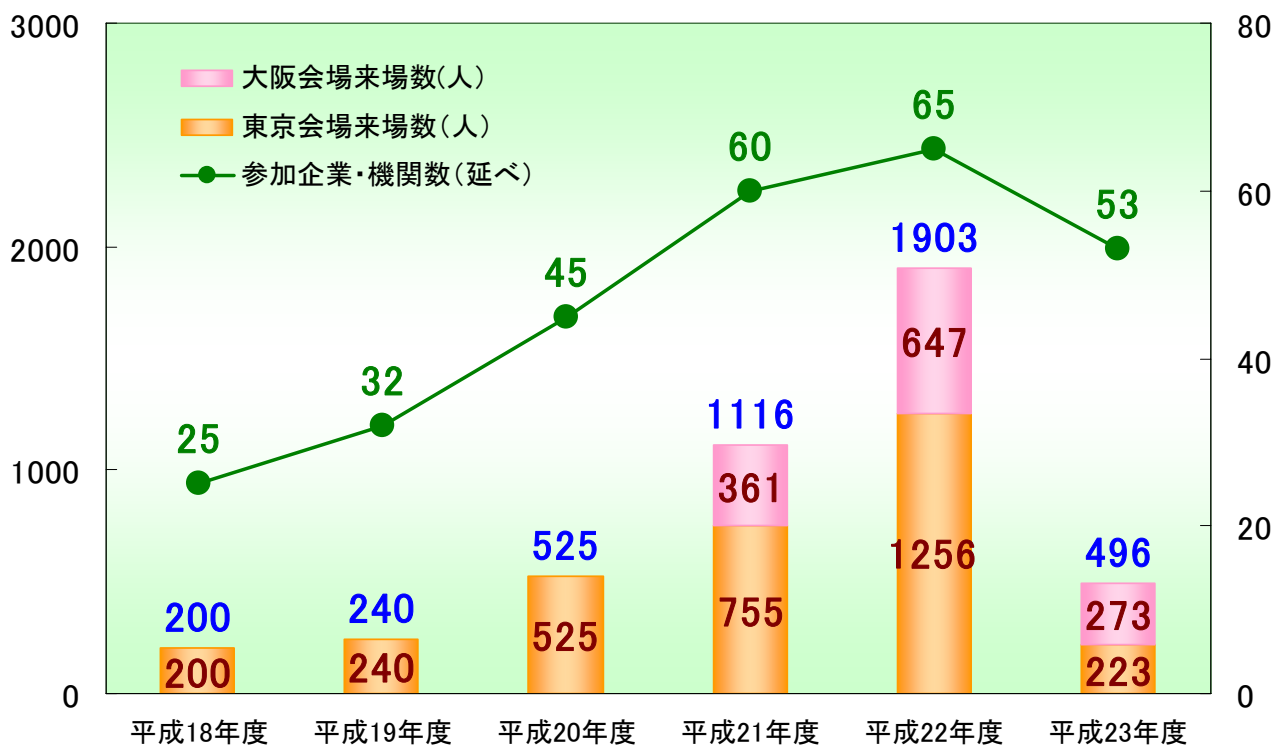
合同企業説明会「原子力産業セミナー2013」ご報告

(社)日本原子力産業協会および関西原子力懇談会は、以下の通り原子力産業セミナー2013を開催いたしましたので、ご報告申し上げます。

1. 概要

( )内の数字は昨年度のものです。

	東京会場	大阪会場	
開催日	平成24年1月28日(土)	平成24年2月4日(土)	
開催場所	新宿エルタワー30階 サンスカイルーム	梅田スカイビル3階 ステラホール	合計
来場学生数	223人(1256人)	273人(647人)	496人(1903人)
参加企業・ 機関数(延べ)	29社(38社)	24社(27社)	53社(65社)



原子力産業セミナーの来場数および参加企業・機関数

## 2. 実施目的

福島第一原子力発電所での事故後、国の原子力政策の方向性はいまだ不透明です。しかし、どのような政策がとられるとしても福島第一原子力発電所の除染・廃炉、既存の原子力発電所の安全性向上のための技術開発、放射線においては医療・工業・農業等における技術利用はこの先必要であるため、継続した人材確保・育成が長期にわたって不可欠と考えます。

従いまして、参加企業・機関の採用活動および学生の就職活動を支援し、原子力産業界への就職のきっかけとして頂くことを目的として本セミナーを開催致しました。

併せて展示エリアを設置し、普段から放射線と関わりの無い学部・学科に所属する学生に対して理解促進を図りました。

## 3. 会場の構成

### 3.1 ブースエリア

参加企業・機関が各ブースにて、学生に対して自社説明会を実施するエリアです。



### 3.2 コミュニケーションエリア

ブースエリアでの説明後、参加企業・機関の担当者がもっと学生と個別に話をしたい時に、ラフな形でコミュニケーションをとるためのエリアです。また、来場学生の休憩場所としてもご利用頂きました。



### 3.3 資料コーナー

参加企業・機関のパンフレットを置くコーナーです。企業・機関ごとに一定のスペースがあり、時間の都合等でブースを訪れることができなかった学生もパンフレット等の資料を入手することができます。



### 3.4 展示エリア

展示エリアはパネルと放射線測定器実演コーナーから成り、学生1～2人程度に対して1人の説明員で理解活動を実施しました。パネルは放射線の性質や、放射線を利用した技術(品種改良、医療器具の殺菌等)について紹介しました。

放射線測定器実演コーナーでは、GMサーベイメータを使用してバックグラウンド、カリウムを多く含有する試料、校正用線源を測定しました。また、鉄・鉛・紙の遮蔽効果や距離による減衰に関する性質を示す実演も併せて実施し、放射線が身近に存在することや放射線防護の三原則を説明しました。



## 4. 昨年度との変更点

### 4.1 開催時期の後ろ倒し

経団連の倫理憲章改定により、平成23年度に就職活動を行う学生(2013年3月卒業の学生)は、就職活動の開始時期が従来の10月から12月に後ろ倒しになりました。これに伴い、本セミナーにおきましても、例年は12月に実施しておりましたが、事務局にて検討を重ねました結果、今年度は1月28日(土)に東京、2月4日(土)に大阪での開催と致しました。

### 4.2 学生への告知手段の変更

学生への告知手段として昨年度は就職情報サイトに告知ページを掲載しておりましたが、今年度は当協会のホームページに掲載しました。また、就職情報会社からのハガキ・E-mail

でのダイレクトメールによる告知も見合わせ、その代替として同社から就職情報サイトに登録した理工系の学生へ郵送される就職関連雑誌にリーフレットを同梱しました。

このほか、携帯電話のメール配信サービスを利用し、対象学年の理系学生へ向けてメールでの告知を実施しました。

#### 4.3 展示物の変更

例年、原子力についての理解促進のため、原子力発電所(BWR・PWR)や燃料集合体の模型、発電原理を解説するパネル等を会場の一角で展示しておりました。今年度は放射線についての関心が高いと考え、その種類や性質について解説されているパネルを展示しました。

さらに、当協会から学生に向けて「原子力産業界は、継続して人材を必要としている」という内容のメッセージパネルを掲示しました。

#### 5. 参加企業一覧

電力企業(五十音順)		東京会場	大阪会場
1	関西電力株式会社	○	○
2	四国電力株式会社		○
3	中国電力株式会社		○
4	中部電力株式会社	○	
5	日本原子力発電株式会社	○	○
6	日本原燃株式会社	○	○
7	北陸電力株式会社	○	○
重電、機械メーカー(五十音順)		東京会場	大阪会場
8	株式会社 IHI	○	○
9	株式会社東芝	○	○
10	株式会社日立製作所	○	○
11	三菱重工業株式会社	○	○
エンジニアリング・燃料加工メーカー (五十音順、*は初参加)		東京会場	大阪会場
12	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	○	
13	MHI 原子力エンジニアリング株式会社	○	○
14	株式会社オー・シー・エル	○	○
15	関電プラント株式会社		○
16	原子燃料工業株式会社	○	○
17	原電事業株式会社	○	○
18	原燃輸送株式会社	○	○
19	サンエス株式会社 *	○	○
20	新日本空調株式会社	○	

21	株式会社千代田テクノ	○	
22	財団法人電力中央研究所	○	
23	東芝プラントシステム株式会社	○	○
24	東洋エンジニアリング株式会社	○	
25	日本エヌ・ユー・エス株式会社	○	
26	財団法人発電設備技術検査協会	○	○
27	株式会社日立プラントテクノロジー	○	
28	三菱原子燃料株式会社	○	○
建設(五十音順)		東京会場	大阪会場
29	太平電業株式会社	○	○
その他(五十音順)		東京会場	大阪会場
30	独立行政法人原子力安全基盤機構	○	○
31	原子力発電環境整備機構	○	
32	独立行政法人日本原子力研究開発機構	○	○
33	財団法人若狭湾エネルギー研究センター		○
合計		29	24

## 6. 後援・協賛

以下の通り、13団体からの後援・協賛を頂きました。

後援	協賛団体(五十音順)
原子力委員会	社団法人 応用物理学会
文部科学省	独立行政法人 国立高等専門学校機構
経済産業省	社団法人 電気学会
	社団法人 電子情報通信学会
	公益社団法人 土木学会
	公益社団法人 日本化学会
	一般社団法人 日本機械学会
	社団法人 日本原子力学会
	社団法人 日本建築学会
	一般社団法人 日本保健物理学会

## 7. 来場学生データ

このデータは、学生がセミナー会場へ入場する際に提出する「エントリーシート」の集計結果をまとめたものです。「エントリーシート」には、所属学校名・学部・学科・氏名等を記入し、会場受付で全員提出するほか、訪問した企業・機関ブースでも1枚ずつ提出します。

### 7.1 所属

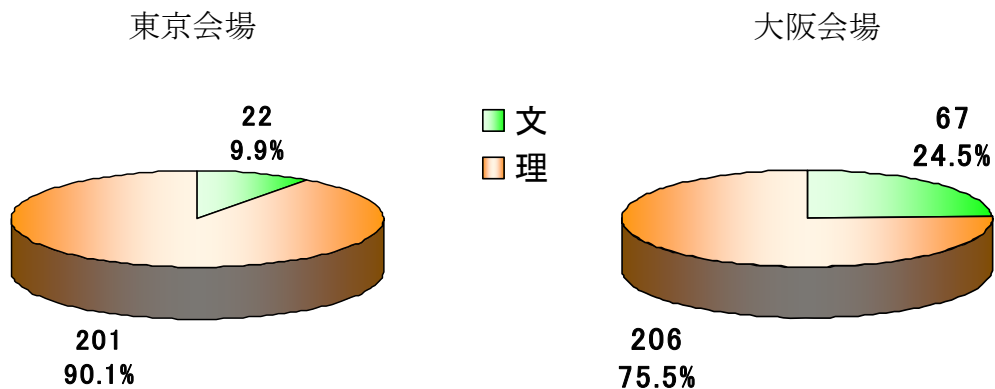


所属	東京会場		大阪会場	
	人数 (単位：人)	割合	人数 (単位：人)	割合
院*	131 ( 643)	58.7% (51.2%)	150 (303)	54.9% (46.8%)
学部	92 ( 600)	41.3% (47.8%)	121 (335)	44.3% (51.8%)
短期大学	0 ( 2)	0% ( 0.1%)	1 ( 0)	0.4% ( 0%)
専門学校	0 ( 1)	0% ( 0.1%)	0 ( 2)	0% ( 0.3%)
高専	0 ( 10)	0% ( 0.8%)	1 ( 7)	0.4% ( 1.1%)
合計	223 (1256)	100% ( 100%)	273 (647)	100% ( 100%)

※マスター、ドクターを合算しております。  
四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合があります。  
( )内の数字は、昨年度のものです。

東京・大阪とも院の割合が増加しました。今年度は原子力関連学科の来場者割合が高く、原子力関連の学科は院のみに存在する大学が多いため、相対的に院の来場者割合が高くなったものと思われます。

## 7.2 文理別割合



来場者合計	東京会場		大阪会場	
	人数 (単位：人)	割合	人数 (単位：人)	割合
文系	22 (167)	9.9% (13.3%)	67 (112)	24.5% (17.3%)
理系	201 (1087)	90.1% (86.5%)	206 (534)	75.5% (82.5%)
不明	0 (2)	0% (0.2%)	0 (1)	0% (0.2%)
合計	223 (1256)	100% (100%)	273 (647)	100% (100%)

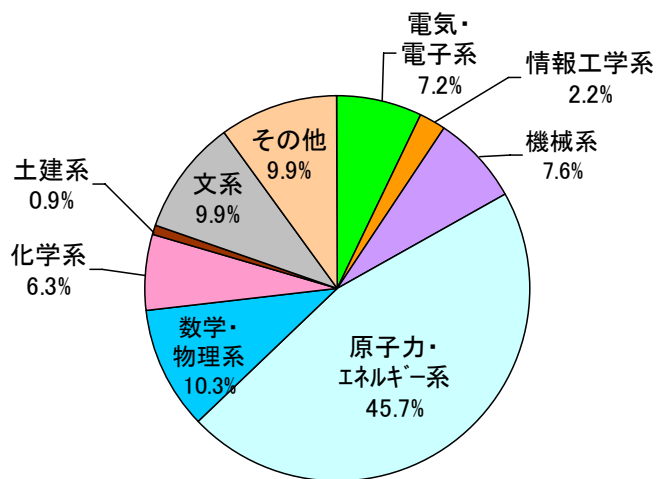
( )内の数字は、昨年度のものです。

昨年度と比較すると、今年度は理系の割合は東京会場で増加、大阪会場では減少しました。

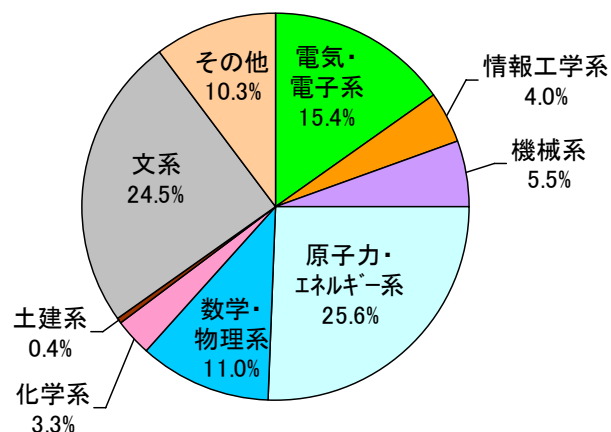


### 7.3 各分野が占める割合

東京会場



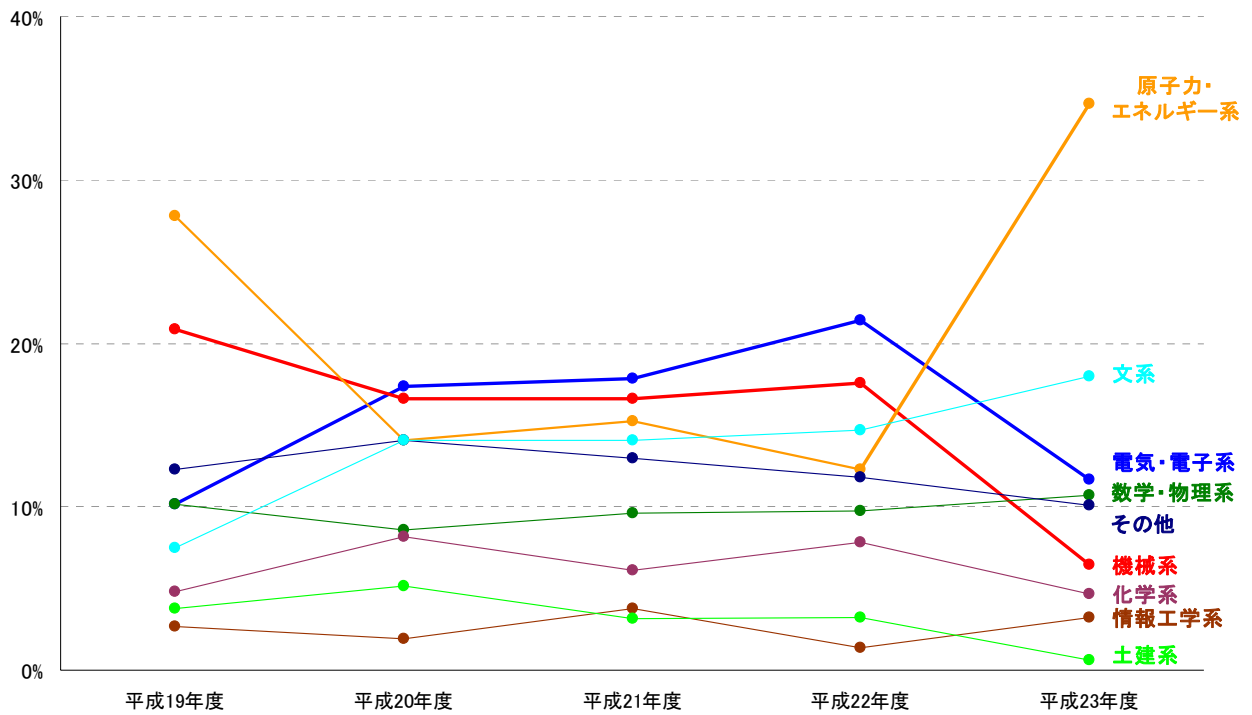
大阪会場



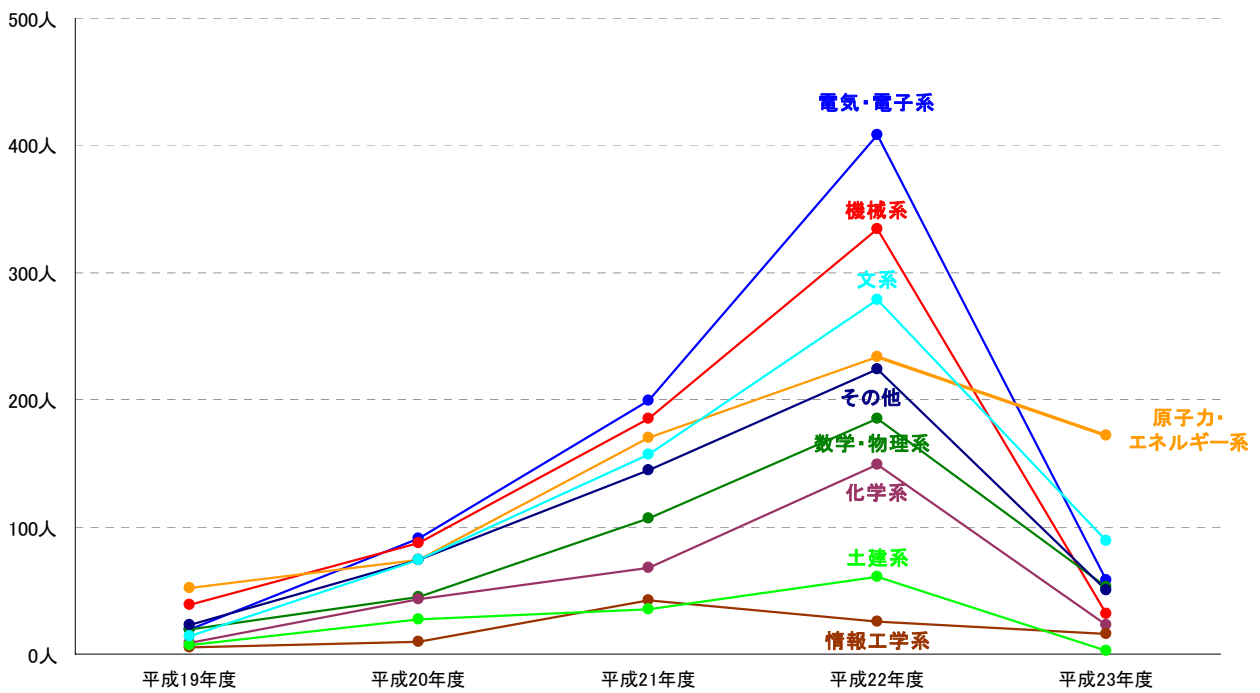
分野	東京会場		大阪会場	
	人数 (単位：人)	割合	人数 (単位：人)	割合
電気・電子系	16(207)	7.2%(16.5%)	42(131)	15.4%(20.2%)
情報工学系	5(70)	2.2%(5.6%)	11(26)	4.0%(4.0%)
機械系	17(240)	7.6%(19.1%)	15(94)	5.5%(14.5%)
原子力・エネルギー系	102(144)	45.7%(11.5%)	70(90)	25.6%(13.9%)
数学・物理系	23(121)	10.3%(9.6%)	30(64)	11.0%(9.9%)
化学系	14(110)	6.3%(8.8%)	9(39)	3.3%(6.0%)
土建系	2(55)	0.9%(4.4%)	1(6)	0.4%(0.9%)
文系	22(167)	9.9%(13.3%)	67(112)	24.5%(17.3%)
その他	22(140)	9.9%(11.1%)	28(84)	10.3%(13.0%)
不明	0(2)	0%(0.2%)	0(1)	0%(0.2%)
合計	223(1256)	100%(100%)	273(647)	100%(100%)

( )内の数字は、昨年度のものです。

来場学生の分野別割合(両会場の合計)



来場学生の分野別人数(両会場の合計)



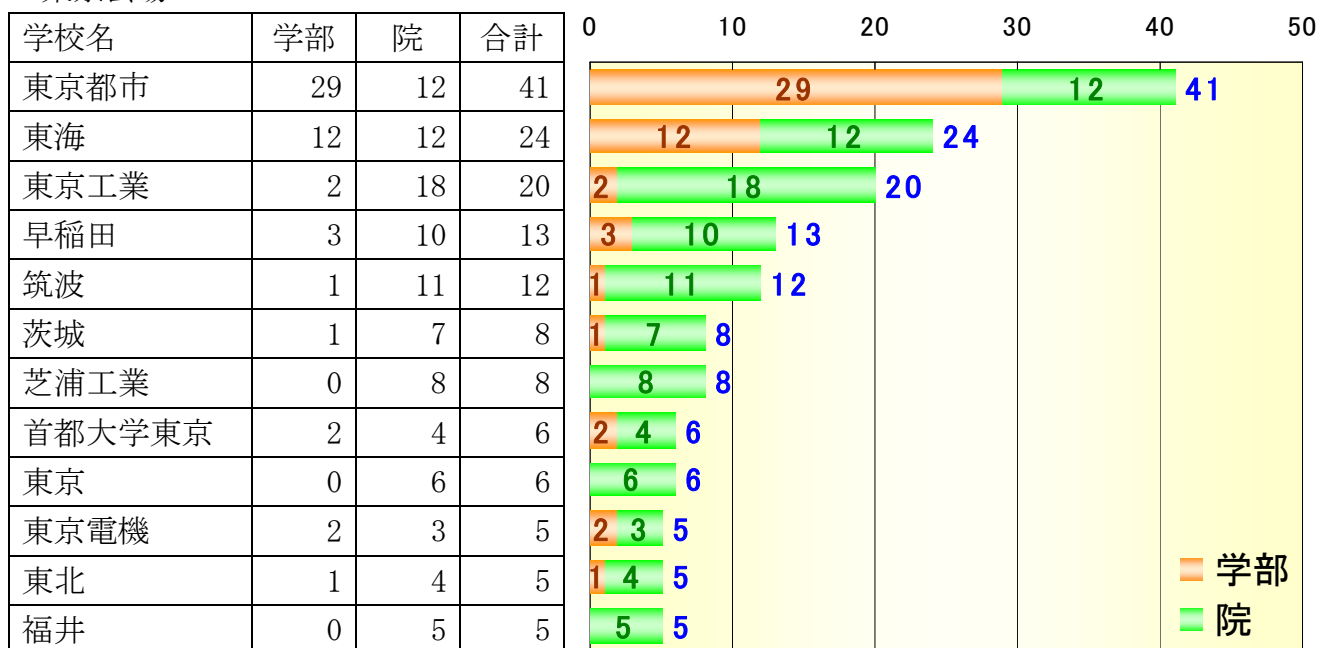
例年で多数を占める「電気・電子系」は前回 338 人から今回 58 人に、「機械系」の学生数も 334 人から 32 人へと大幅に落ち込みました。一方で、原子力・エネルギー系も 234 人から 172 人へと学生数は減少したものの、減少幅が他の分野と比較して小さい結果となりました。

原子力分野以外でも必要とされる電気・電子系および機械系は、他産業(例として電気機器メーカーや自動車メーカー等)に流れたものと考えられます。また、原子力分野を専攻する学生は他専攻より原子力分野への就職を意識していると考えられます。

「文系」は大阪会場で特に高い割合を示しました。しかし、本セミナーの告知は理系学生を中心に実施しており、文系の学生が多く参加した要因は把握できておりません。

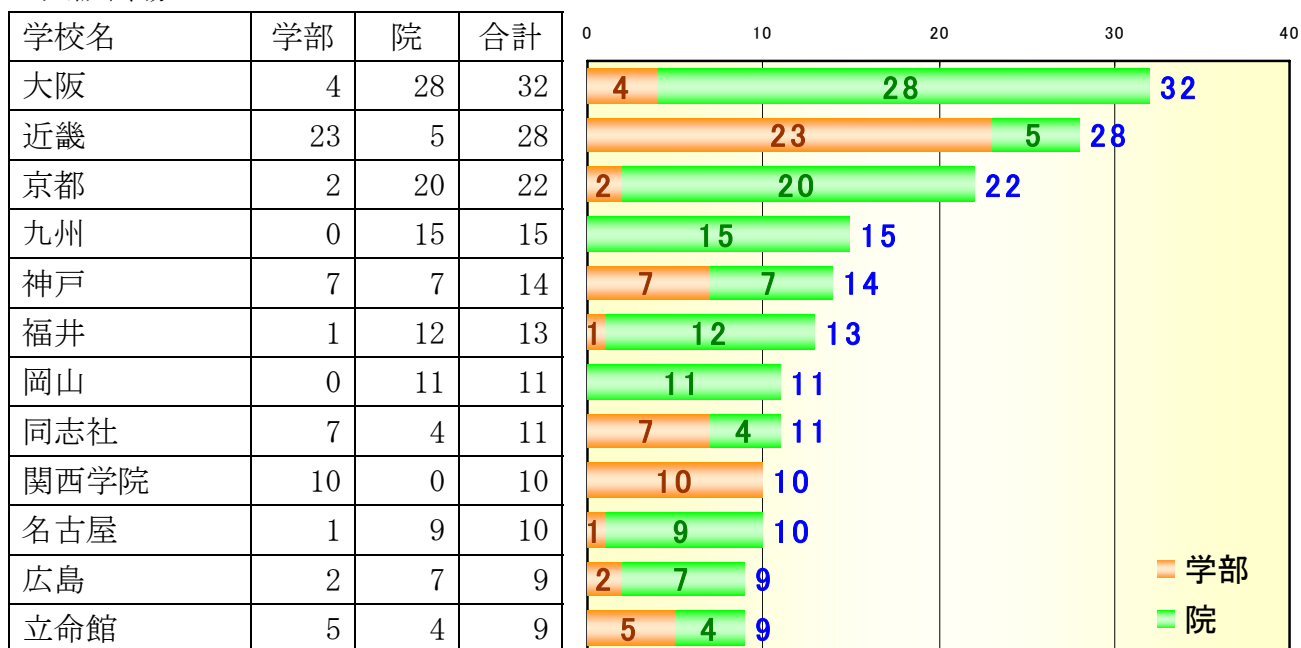
## 7.4 大学別動員数(上位 10 校のみ掲載)

### <東京会場>



単位：人

### <大阪会場>



単位：人

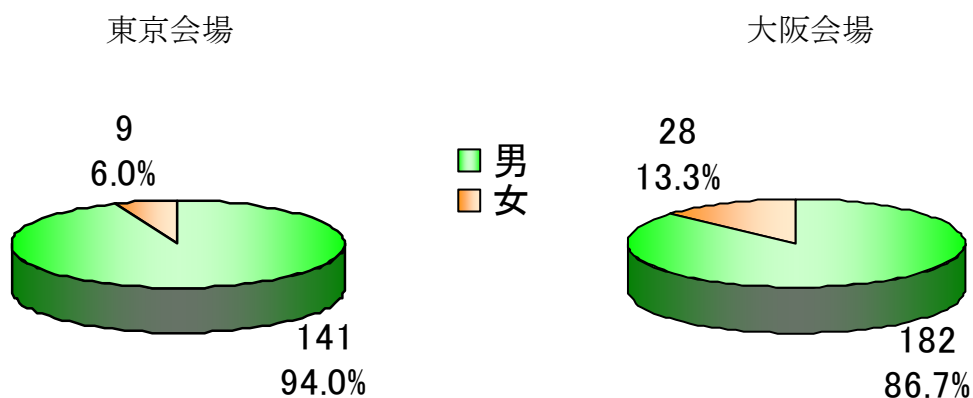
原子力関係の学科が存在する大学が上位を占める結果となりました。原子力を専攻とする学生は依然として本セミナーに高い関心を寄せているようです。

## 8. 来場学生へのアンケート結果

以下の設問は、入場時に学生が受付に提出するエントリーシートとは別に、当協会が独自に実施しましたアンケートで、提出は任意とさせて頂いておりました。来場学生数に対するアンケート回収率は、東京会場が約 67%、大阪会場が約 77%です。

これらのアンケートは「原子力」という単語を含む名称の合同企業説明会「原子力産業セミナー2013」に来場した学生に対して実施したものです。従いまして、原子力関連学科の学生の参加割合が高く、基本的に原子力に対して関心のある学生がアンケートの対象です。そのため、集計結果は全国の学生における原子力に対する評価ではないことに留意する必要があります。

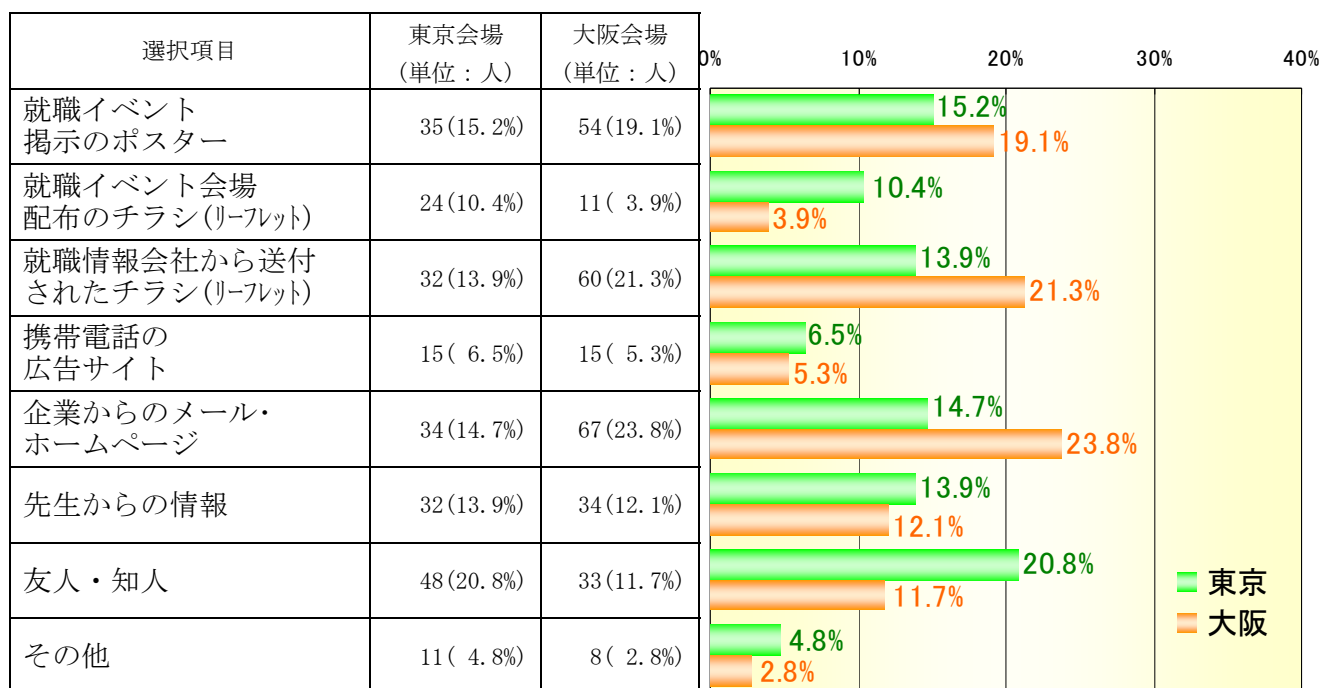
### 8.1 男女比



性別	東京会場 (単位：人)	大阪会場 (単位：人)
男	141 (94.0%)	182 (86.7%)
女	9 ( 6.0%)	28 (13.3%)
無回答	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)
合計	150 ( 100%)	210 ( 100%)

東京会場と比較し、大阪会場では女性の割合が多いようです。

## 8.2 原子力産業セミナー2013 をお知りになったきっかけは？(複数回答)

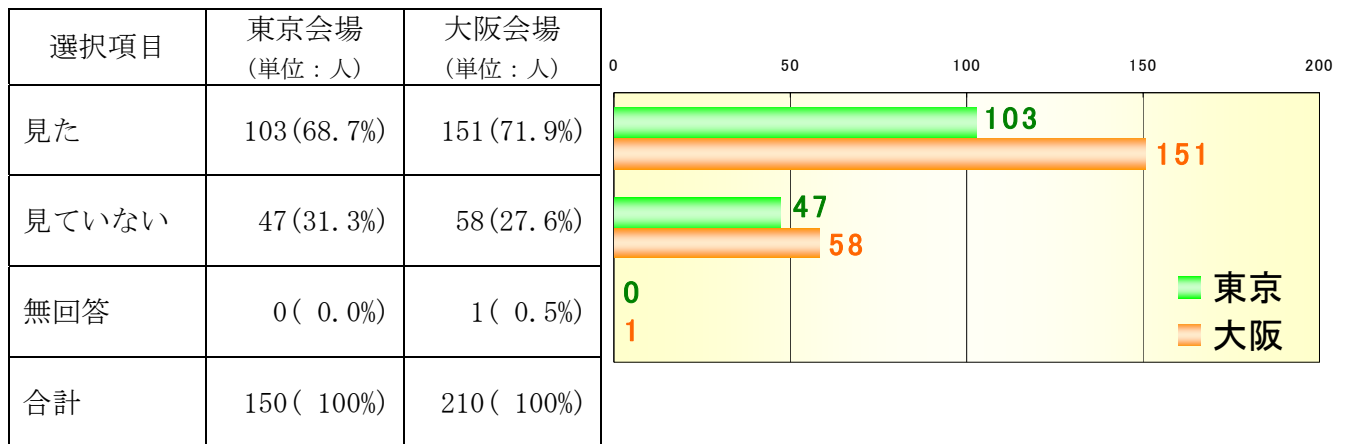


東京会場で多数を占めた回答は「友人・知人」で、それ以外の項目は同程度でした。本セミナーは毎年開催しており、東京会場は今回で6回目になるため、原子力関連の学部を専攻している学生の間では比較的認知度が高く、ゼミやサークル等で情報が流布されているようです。

大阪会場では「企業からのメール・ホームページ」「就職情報会社から送付されたチラシ(リーフレット)」「就職イベント掲示のポスター」が突出しています。参加企業・機関が自社ホームページや就職情報サイトといった電子媒体で展開している採用活動に、学生側も敏感に反応したようです。

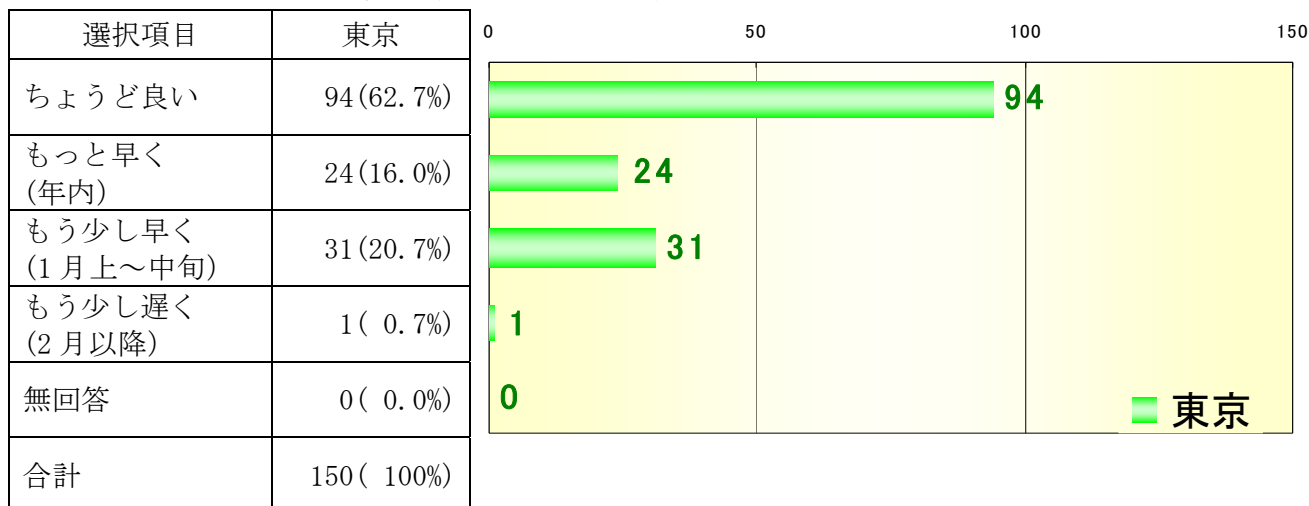
全体的に就職情報会社の関連の有無、紙・電子媒体等に関わらず、学生は多方面に注意を向け、積極的に情報を収集している様子が伺えます。

### 8.3 原子力産業セミナー2013 のホームページはご覧になりましたか？

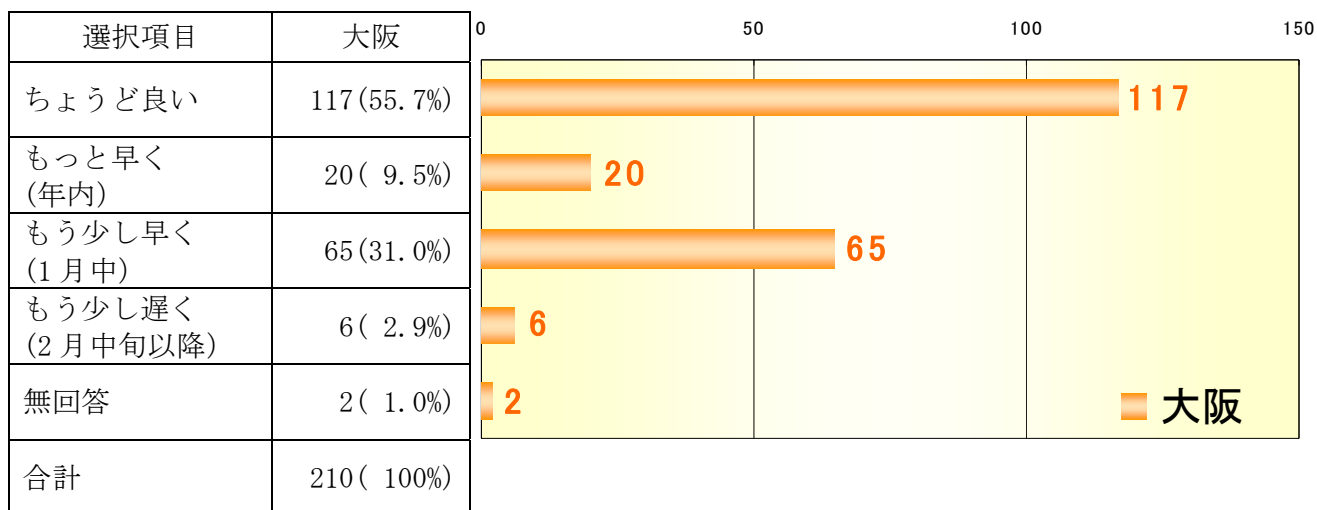


今回のセミナーでは、リーフレットや広告サイトに原子力産業セミナー2013のURLを記載し、そこを入り口として出展企業・機関や会場へのアクセスが記載されているホームページへ誘導しました。東京・大阪とも全体の7割程度の学生が閲覧しており、情報提供の目的を果たすとともに、セミナーの趣旨をご理解頂ける機会とすることができました。

#### 8.4 今回のセミナーの開催時期(1/28(土)東京、2/4(土)大阪)はいかがでしたか？



(単位：人)



(単位：人)

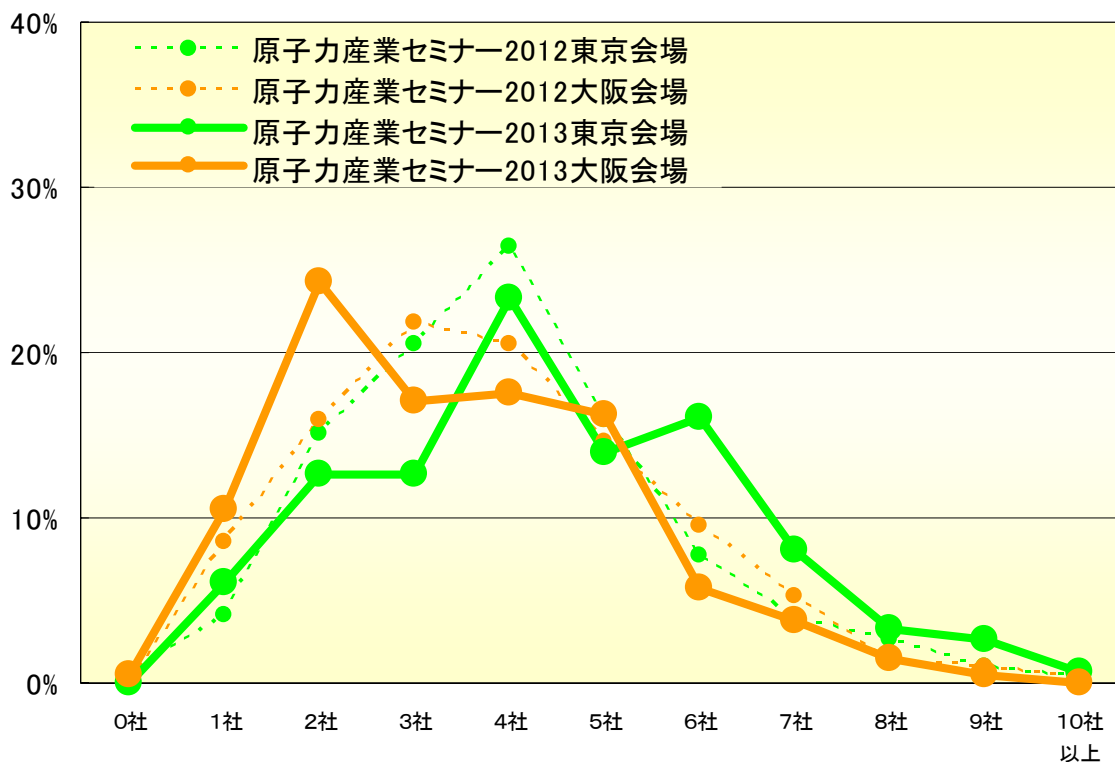
東京会場(1/28(土))より1週間遅れての開催である大阪会場(2/4(土))では「もう少し早く(1月中)」と回答した学生の割合が東京より多い傾向が見られます。そして、その分「ちょうど良い」の割合は東京より少ないようです。

現在よりも早い時期の開催を望む声「もっと早く」「もう少し早く」は東京35%、大阪40%と少なくはありません。また、現在より遅い時期の開催を望む声は少数でした。

今回は経団連の倫理憲章改定後初めてのセミナーでしたが、学事行事や企業・機関の採用スケジュールを考慮しますと、概ね開催時期としては適切であったと思われます。



### 8.5 本日のセミナーでは、実際に何社の説明をお聞きになりましたか？



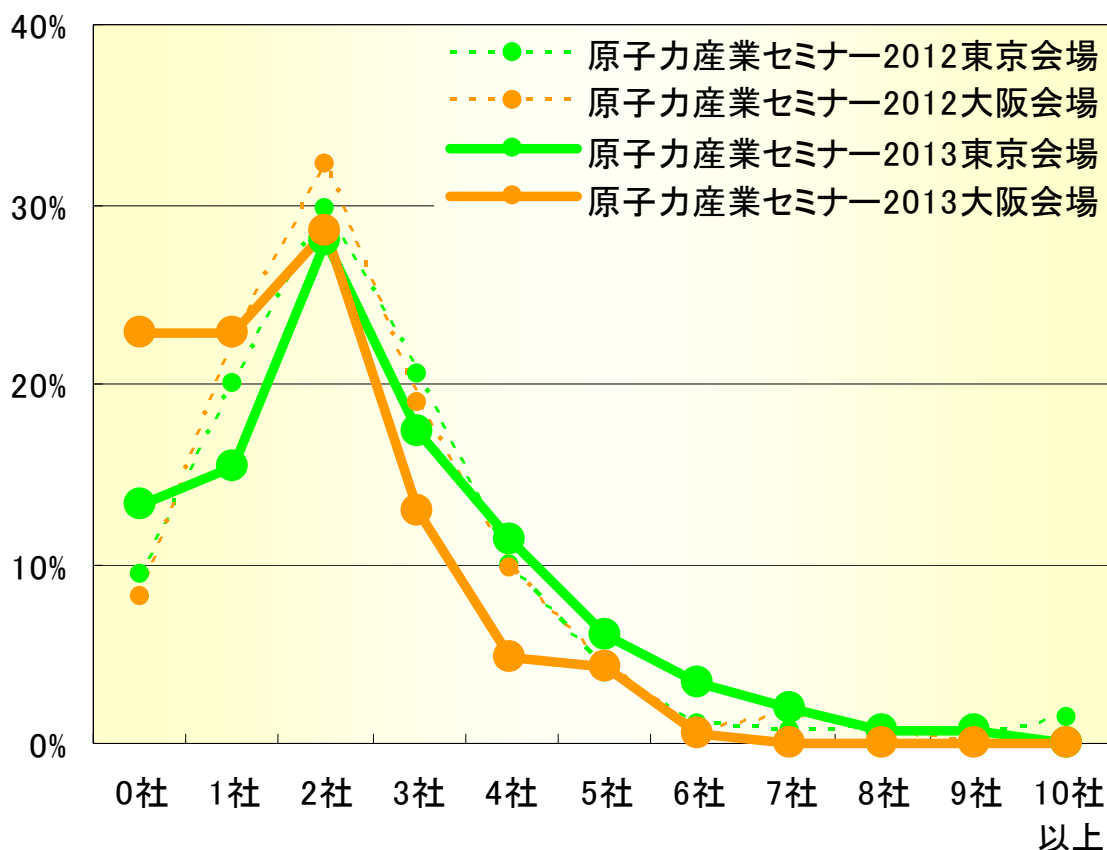
ブース数	東京会場	大阪会場	ブース数	東京会場	大阪会場
1社	9( 6.0%)	22(10.5%)	7社	12( 8.0%)	8( 3.8%)
2社	19(12.7%)	51(24.3%)	8社	5( 3.3%)	3( 1.4%)
3社	19(12.7%)	36(17.1%)	9社	4( 2.7%)	1( 0.5%)
4社	35(23.3%)	37(17.6%)	10社以上	1( 0.7%)	0( 0.0%)
5社	21(14.0%)	34(16.2%)	0社	0( 0.0%)	1( 0.5%)
6社	24(16.0%)	12( 5.7%)	無回答	1( 0.7%)	5( 2.4%)
単位：人 「10社以上」は10社として計算 無回答を除く			合計	150( 100%)	210( 100%)
			平均訪問 ブース数	4.45(3.95)	3.47(3.82)

東京会場の昨年度( --●-- )と今年度( —●— )の割合を比較しますと、ピークは「4社」で変化はありませんでしたが、「2社」「3社」におきましては減少し、反対に「6社」「7社」で増加傾向が見られました。このため、平均訪問ブース数(学生1人当たり、何社のブースを訪問したかの平均)は3.95から4.45と大幅に増加しました。

一方で、大阪会場の昨年度( --●-- )と今年度( —●— )では、特に「2社」が大幅に増加し、「3社」「4社」「6社」が減少しました。これらの結果は、平均訪問ブース数を前回の3.82から3.47へと押し下げに寄与していると考えられます。

東京会場の学生は幅広い分野を見るため多くのブースを訪問する一方で、大阪会場では目的の企業を来場前からすでに決定し、そのブースのみを訪問しているようです。

8.6 セミナーに来場し、新たに興味を持った企業・機関は何社ありましたか？



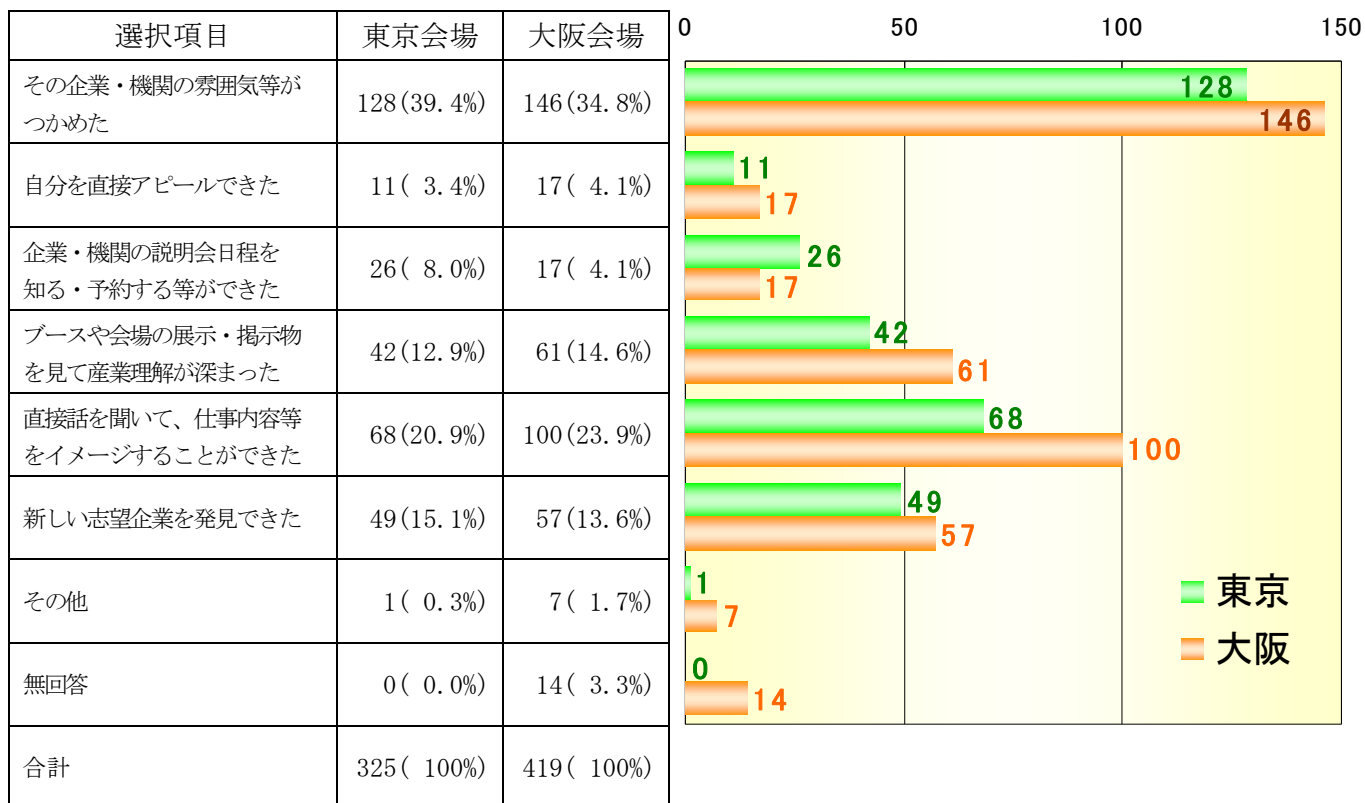
ブース数	東京会場	大阪会場	ブース数	東京会場	大阪会場
1社	23(15.3%)	48(22.9%)	7社	3(2.0%)	0(0.0%)
2社	42(28.0%)	60(28.6%)	8社	1(0.7%)	0(0.0%)
3社	26(17.3%)	27(12.9%)	9社	1(0.7%)	0(0.0%)
4社	17(11.3%)	10(4.8%)	10社以上	0(0.0%)	0(0.0%)
5社	9(6.0%)	9(4.3%)	0社	20(13.3%)	48(22.9%)
6社	5(3.3%)	1(0.5%)	無回答	3(2.0%)	7(3.3%)

単位：人  
「10社以上」は10社として計算  
無回答を除く

両会場とも「0社」が大幅に増加しており、特に大阪会場(---●--- ●---)ではその傾向が顕著で、相対的に「3社」「4社」を中心に減少しております。来場学生は、当初から目的の企業・機関にのみ訪問ブースを絞り、効率的に巡回している可能性があります。

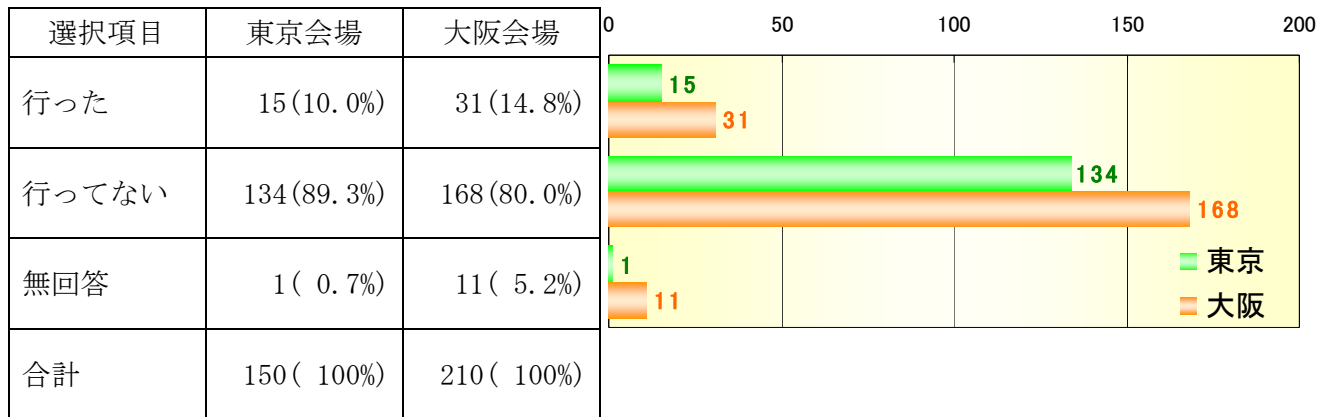
グラフでは、両会場(●と●)・両年度(---- と ---)ともに2社にピークがあります。4~10社以上では、東京会場が昨年度(---●---)より今年度(---●---)が上回り、大阪会場が昨年度(---●---)を今年度(---●---)が下回る結果となりました。セミナー認知のきっかけを見ると、大阪では「企業からのメール・ホームページ」が多数を占めていることから、来場前からすでに訪問企業を決定しているようです。

8.7 本日のセミナーで役に立ったのは、どのような点ですか？(複数回答)



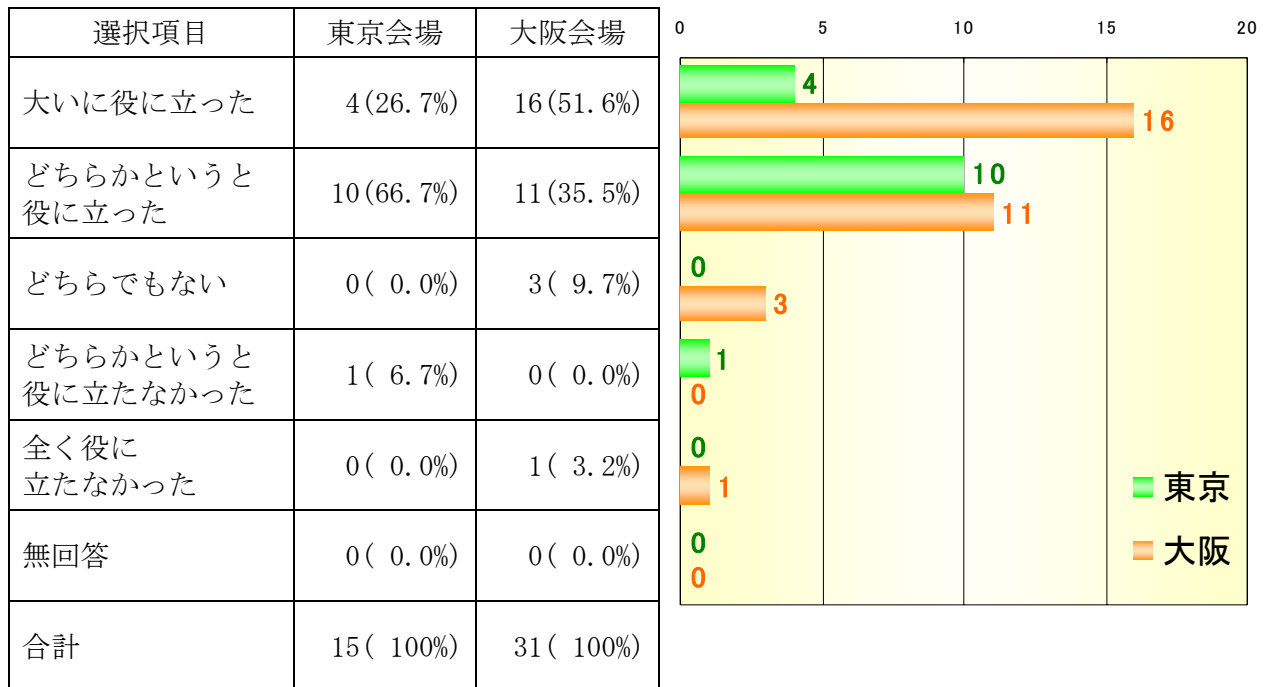
両会場とも「企業・機関の雰囲気等がつかめた」「直接話を聞いて仕事内容等をイメージすることができた」が上位にあり、ネット上では得られない情報を入手したかったのでは、ということが伺えます。その他に「新しい志望企業を発見できた」「産業理解が深まった」も上位にあり、当初の目的である放射線・原子力の理解促進や企業・機関と学生間の接触機会を創出できたと考えます。

8.8 ① 「展示エリア（放射線に関する展示・放射線測定器の実演）」に行きましたか？



単位：人

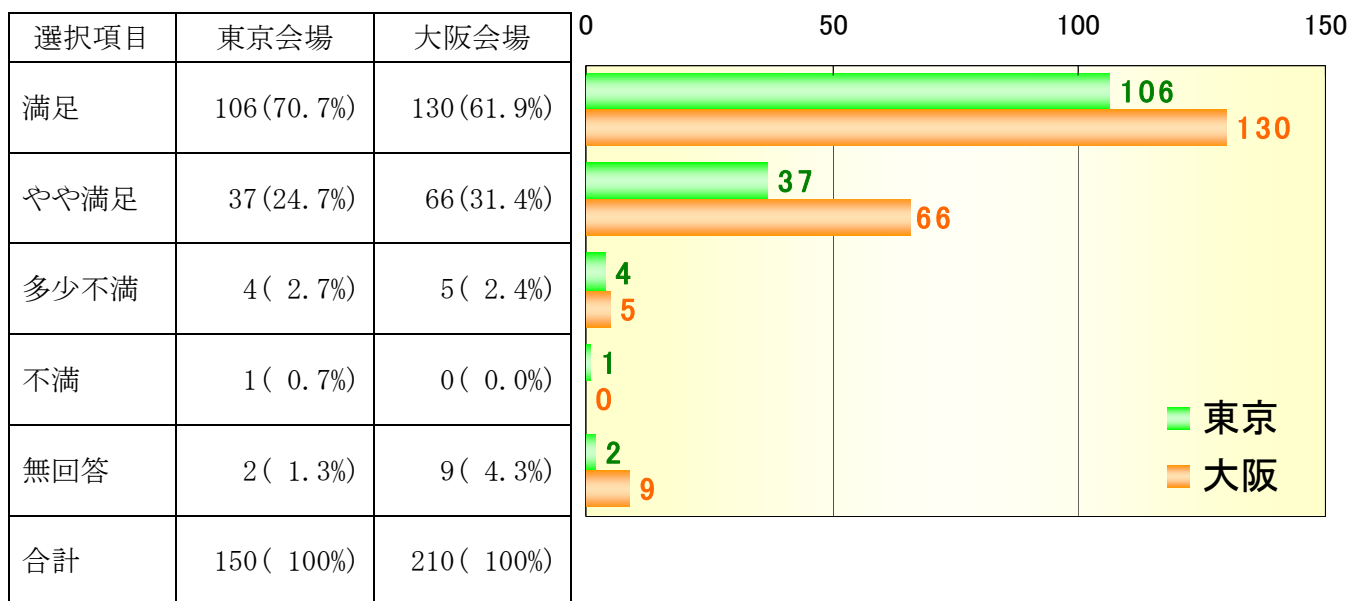
8.8 ② ①で「はい」と回答された方に伺います。それは役に立ちましたか？



単位：人

アンケートでは「大いに役に立った」「どちらかという役に立った」の回答が約9割を占め、放射線の理解促進に資することができたものと思われます。

8.9 本日のセミナーに参加された感想はいかがでしたか？その理由もお聞かせください。



単位：人

「満足」「やや満足」と回答した学生は両方の会場で9割を超え、学生の満足度は非常に高かったものと考えられます。

<アンケート抜粋>セミナーの感想や、上記設問の回答理由について(自由記入を一部抜粋)

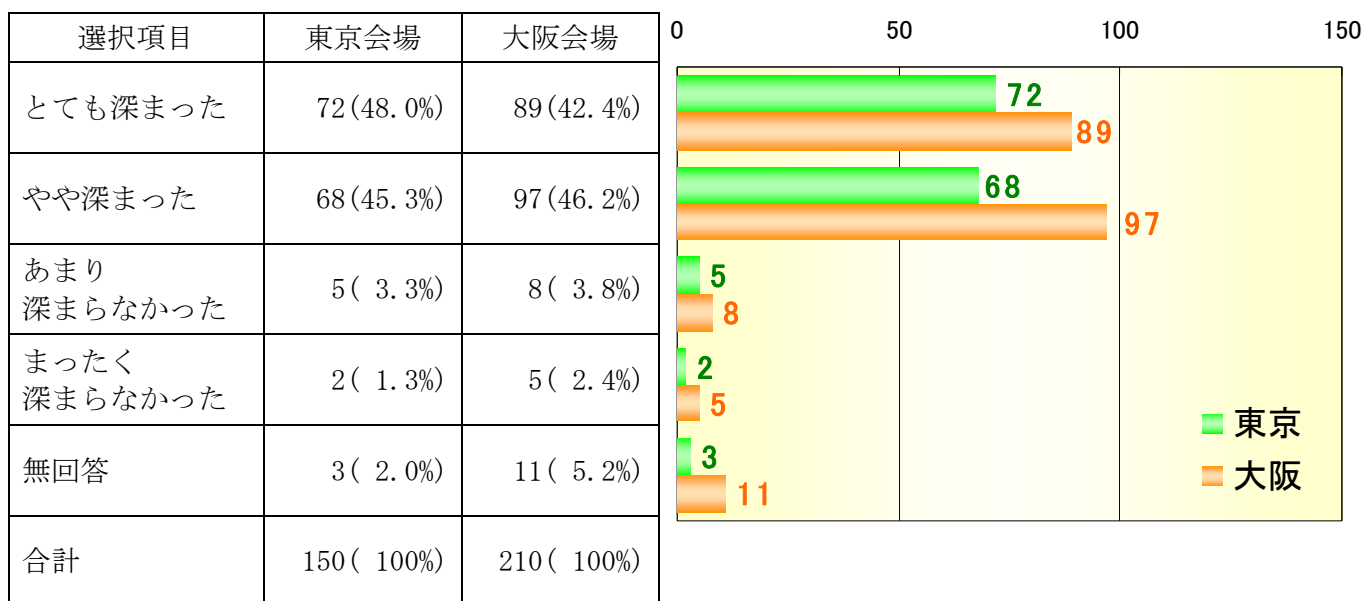
#### 東京会場

- ・ 原子力分野を一度に見られた。
- ・ 時間が足りないくらい。
- ・ 新たな発見があった。
- ・ 知らなかった原子力系企業を知る事ができた。
- ・ 自分をアピールできたため
- ・ 原子力事業部の方が参加されていた点。
- ・ 各企業の原子力に対する今後の方針を聞いた。
- ・ 展示スペースで放射線を学べた。
- ・ 担当者との距離が近いから。
- ・ 企業の雰囲気を知ることができた。
- ・ ネットの情報より鮮明に企業イメージが持てた。

#### 大阪会場

- ・ 他のセミナーではなかなか原子力について聞けないため
- ・ 原子力を担っている人の熱い声が聞けた
- ・ 原子力企業の考え方を感じた
- ・ 新しい分野の仕事を見つけた
- ・ 業界を横断して、いろいろな企業を一度に知ることができた
- ・ 優良企業が多すぎて時間が足りない
- ・ 文系につめたい印象だった
- ・ 少ない人数で話を聞けた
- ・ 地方学生が同じ業界の企業を一同に見られるのはありがたい
- ・ はじめて知った企業があった

8.10セミナーに参加されたことで、原子力産業への理解は深まりましたか？



「とても深まった」もしくは「やや深まった」と回答した学生は約9割に上り、原子力産業セミナー2013の実施目的のひとつである「原子力・放射線の理解促進」は達成できたものと考えております。

<アンケート抜粋>上記設問の回答理由(自由記入欄)

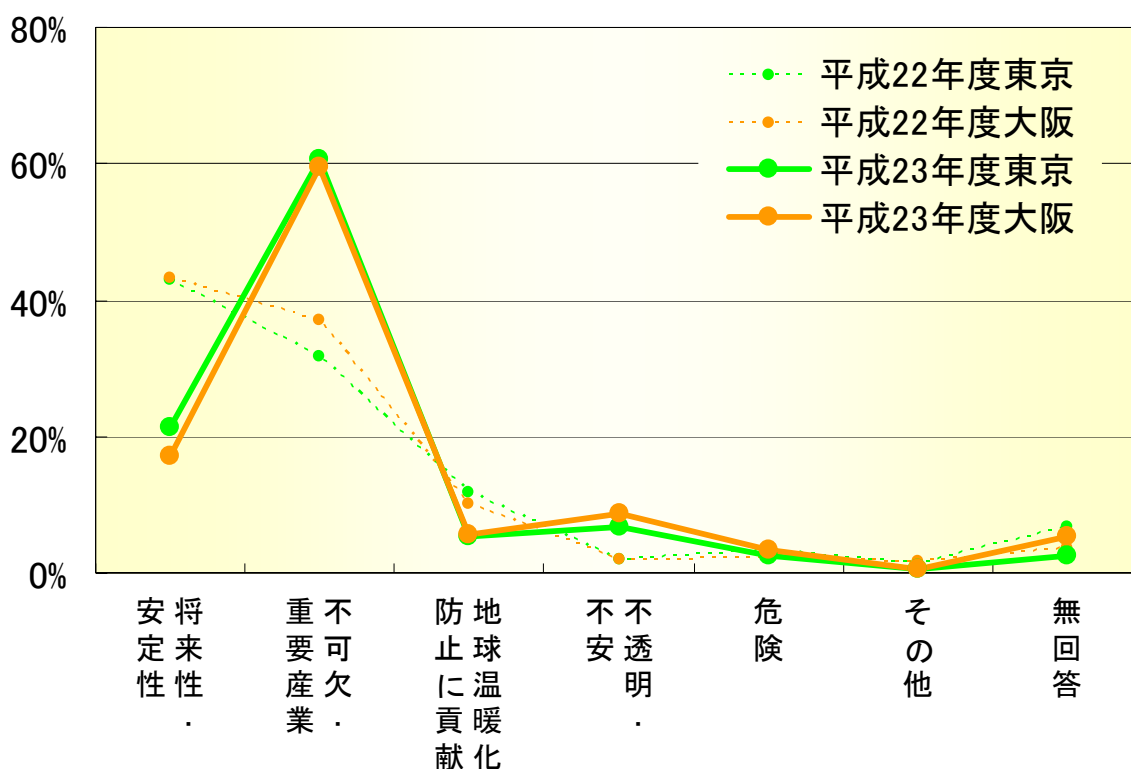
東京会場

- ・ 産業の社会的立ち位置について学べた
- ・ 原子力にさまざまなアプローチがあることを知った。
- ・ 3・11での不安が無くなった。
- ・ 今後の見通しが曖昧なため。
- ・ まだ原子力産業に絞りきれていないため。
- ・ 事前の調べよりも多くのことを得られた。
- ・ ネット以上の情報を得ることができた
- ・ 漠然としたものがより具体的になった

大阪会場

- ・ プラントの製造と運営、保守の業務の違いが良く分かった。
- ・ 知らなかった企業を知ることができたため。
- ・ 燃料・サイクルなど新たな発見があった。
- ・ 震災後のこの業界の意見を聞くことができた。
- ・ 原子力産業の現状を知ることができた。
- ・ さまざまな視点から「原子力産業」に触れることができた
- ・ ホームページで得られない情報を得られた

8.11原子力産業に関して、どのようなイメージをお持ちですか？



選択項目	東京会場	大阪会場
将来性・安定性	32 (21.3%)	36 (17.1%)
不可欠・重要産業	91 (60.7%)	125 (59.5%)
地球温暖化防止に貢献	8 (5.3%)	12 (5.7%)
不透明・不安	10 (6.7%)	18 (8.6%)
危険	4 (2.7%)	7 (3.3%)
その他	1 (0.7%)	1 (0.5%)
無回答	4 (2.7%)	11 (5.2%)
合計	150 (100%)	210 (100%)

単位：人

「将来性・安定性」の項目が占める割合は昨年度は約40%でしたが今年度は20%に減少しました。これは、福島第一原子力発電所の事故を受け、事故前までは「ありえない事」とされていた事故の可能性を、学生がより現実的に意識するようになったためと思われます。

また、来場学生は、原子力発電に対するリスクは認めるものの日本のエネルギー事情や経済への影響を考慮すると必要であると認識しているようです。

来場者数だけに着目すると、例年と比較して大阪会場の方が減少幅が小さく、西日本の方は東日本より原子力産業に寛容であるようです。また、来場者にアンケートを実施してみますと原子力産業に対して持っているイメージ(原子力産業に否定的かどうか)についての差異は見られませんでした。

<アンケート抜粋> 「原子力産業に対するイメージ」の回答理由(自由記入欄)

東京会場

- ・ 資源の無い国なので。
- ・ 二酸化炭素の削減につながる。
- ・ 原子力に取って替わる技術がまだ無いため。
- ・ 日本のエネルギーの第一課題は安定供給だと思うから。
- ・ 今回の震災を通して簡単に廃炉を求めるだけではいけないと思った。
- ・ 今の社会が「脱原発」の傾向にあるため
- ・ この先どうなるかわからない。
- ・ どの企業も今の状況を悲観していないのが印象的でした。
- ・ 今の日本では危険なイメージしかないため。
- ・ 解決策が見えない。
- ・ 安全性が一番気になる。
- ・ 政府がはっきりしない。
- ・ 海外市場がメインになるから。

大阪会場

- ・ 二酸化炭素削減、安定供給に不可欠な産業。
- ・ 日本の自給率、国土を考えれば必須だと思う。
- ・ 経済的な問題も考えると、他の発電では難しい
- ・ エネルギー問題には必要と思った。
- ・ 電源供給を安定的に行うためには現状不可欠。
- ・ やはり次世代エネルギーが未完成なので。
- ・ 今の状態では危ないが、必要なものである。
- ・ 発電以外にも、医療や農業などで将来性があると思います。
- ・ 重要だからこそ、課題も多いと思います。
- ・ 医療にも貢献できるから。
- ・ エネルギーとして必要だが、震災の事故があったため。
- ・ 他に代わるものがない。



## 8.12原子力産業セミナー2013 に対するご意見・ご感想があればお聞かせください。

### 東京会場

- ・ 今回の震災で原子力のイメージが悪くなり、各企業は原子力事業についてあまり説明していない状況でした。今回のセミナーは原子力に目を向けたセミナーだったので、志望するものとしても参考になりました。
- ・ このような特定の産業に特化したセミナーはあまり無いので、今回は参加して大変有意義でした。
- ・ 専門の方が多くいらっしゃり、かなり突っ込んだ内容まで質問できました。ありがたかったです。
- ・ 原子力業界が一堂に会して参加されるということで、北海道から来ましたが、実際に原子力業界のパワーを生で感じることができ、非常に勉強になりました。
- ・ 学部4年生で来年大学院へ行く予定ですが、今回来てみてこれからの研究内容が仕事につながると感じました。
- ・ 業界の企業が集まっていると、興味がある業界であればとても充実した説明を受けられます。遠方ではなかなか各社の説明を聞くこともできず、今回まとめて説明が受けられて大変有意義でした。
- ・ インターネットで会社情報を見るより鮮明に企業の業務内容を知ることができました。脱原発の風潮が強い中、企業がどのように立ち向かっていくのか、非常に貴重な意見を聞くことができました。
- ・ もっと広告をしてほしかった。とても良い企画だと思う。
- ・ 比較的大手の企業が多かったため、中小企業の話も聞きたかった。

### 大阪会場

- ・ これからの就活に大きな参考となりました。主要電力会社がもう少し来てくれるとより良いと思います。
- ・ 昨年から原子力産業を取り巻く環境が大きく変化している中で、その最前線で活躍している社員の方のお話が聞けて大変参考になりました。
- ・ 震災以降、原子力産業界に対して少し不安に思っている部分があったが、セミナーに参加することでそうでもないかもしれないと考え方が代わった。
- ・ 具体的な事業内容や仕事内容を聞いてよかったです。産業理解が深まりました。
- ・ 自分自身、原子力発電に対して更に考え、行動し、意見を述べていきたいと思った。
- ・ コミュニケーションエリアの設置により、企業だけでなく、学生同士でも交流ができ、大変有意義な時間を過ごせました。
- ・ 業界セミナーということで、自分がどのような立ち位置で関わっていけるのかが明確になりました。
- ・ 技術系学生のためのセミナーだと思っていましたが、それがかえって文系の私には多くの発見をもたらし、大変有意義でした。
- ・ これからの将来を原子力に変えていくんだという使命感が伝わってきました。
- ・ 各社の考えを知ることができてよかった。想像以上に原子力の需要は大きいものと知り、興味がわいた。
- ・ マスコミがいうイメージと実際のイメージが違って良かった。

## 9. 総括

- 例年では、大阪会場の来場学生数は東京会場の5割程度でしたが、今年度は東京会場を上回りました。来場学生数の昨年度比の減少幅は東京(82%減)より大阪(58%減)の方が小さく、地域によって原子力産業に対する接し方に温度差があります。
- すべての分野で来場学生数が減少しましたが、特に「電気・電子系」および「機械系」の減少幅が大きい結果となりました。
- 原子力政策について今後の方向性が不透明であり、この点について不安の声を漏らす学生も散見されました。
- リーフレットやホームページ、会場のメッセージパネル等で「福島第一原子力発電所事故の対応・除染・廃炉、他の原子力発電所の安全性向上および放射線応用技術等のため、原子力産業界は今後も継続して多様な人材を必要としている」という事を訴え、来場学生の理解を得られたと考えております。
- 今年度は大学の就職部でのポスター掲示や就職情報サイトといった不特定多数へ向けた告知を見送り、理系学生を中心に個人へのリーフレット送付・メールの送信等を活用しました。また、参加企業・機関からのPRも告知に大きく寄与しました。そして、「原子力・エネルギー系」の来場学生の減少幅が小さい事と、積極的にPRしていない「文系」の来場学生の割合が「原子力・エネルギー系」に次いで高いことから、本セミナーの実施情報は学生へ行きわたっていたと考えられ、告知方法を変更した影響は小さかったものと思われます。

## 10. 課題

原子力・エネルギー系以外の分野の来場学生数が大幅に落ち込んだことから、福島第一原子力発電所の事故以降、学生は原子力産業界を敬遠していると考えられます。原子力産業界はこの現状を受け止め、産業界全体で総力を挙げ、特に採用比率の高い機械系および電気・電子系分野を中心とした理系学生に対し、既存の原子力発電の利用・廃炉等のような政策がとられるとしても、長期にわたり継続して新しい人材が必要であることをPRしてゆく必要があります。

以上